

ILCと共生する まちづくりビジョンの概要(第2回)

▶ 問い合わせ先＝ILC推進室(内線216)



大船渡港がILC物流の拠点となります

本市では、平成30年度にILC実現に伴う効果を最大限に生かすための諸活動の取組指針として、「ILCと共生するまちづくりビジョン」を策定しました。

広報大船渡7月5日号では、「策定方針」や「将来像およびその実現のための基本的な考え方」などを紹介しました。本号では、「分野別の将来像」などについて、概要をお知らせします。

分野別の将来像

5つの将来像について、分野別に解説します。

① 港湾・物流・道路

ILCの誘致実現後、最初に本市に関係してくるのが、ILC建設に伴い資機材の荷揚げが想定される「港湾」、荷揚げされた資機材を運搬する「物流」、資機材が荷揚げされる港湾と建設候補地を結ぶ「道路」です。

本市では、これらの将来像を次のようにしています。

世界と岩手をつなぐ 海の玄関口 国際港湾都市

■ 県内随一の港湾機能を多機能な物流ハブとして活用

- ・重要港湾・大船渡港をILC建設における物流拠点として最大限活用するとともに、大船渡港からILC建設工事の各拠点へ至る物流ルートの確立を図ります。

- ・大船渡港は、ILCに関連する資機材の検査、組み立て、さらには保管などにおいて、ILCの本体工事の工程に合わせた柔軟な対応が可能であり、本体工事の工程最適化に大きく役立つものと考えられます。

- ・大船渡港周辺においては、ILCに関連する資機材の荷揚げだけでなく、それらの検査・組み立て・保管などにも対応できるような、多面的な機能を担う物流ハブの形成を図ります。

■ 輸送ルートの最適化に向けた取り組み

建設開始に向けて、主要輸送ルートのボトルネック箇所

(通行困難箇所)と必要な対策の特定を進めるとともに、国・県と協調しながら、輸送ルート全体の最適化を図ります。

■ 物流ハブの将来的な有効活用(新たな産業振興の起点として)

- ・物流ハブは、運用開始後も役目を終えることなく、引き続き重要な拠点として機能し続けます。

- ・運用後も持続する港運事業などの誘致を積極的に行うことで、ILCに直接関係しない業種も含めた多角的な物流ハブの形成を図ります。

- ・資機材の検査・組み立て・保管などの機能の研究・開発拠点機能へのシフトなどを図りながら、ILC運用後も大船渡港の持続的な有効活用を図ります。



ILCに関する物流や交流の拠点、世界と岩手をつなぐ海の玄関口として、多角的な物流ハブを備えた国際港湾都市の形成を図ります。

【物流ハブ】5ページ用語解説参照

②産業

ILC誘致実現後は、建設候補地を中心に多くの産業が集積すると考えられます。

本市においても、ILC建設時における物流ハブを起点として、さまざまな産業が集積することが想定されます。産業の創出は、人口減少対策の要である雇用の創出につながります。

本市では、「産業」分野の将来像を次のようにしています。

ポテンシャルを生かした新産業の創出により 発展・進化するまち

ILCから派生する産業のマッチングによる産業高度化

早期から市や商工会議所、地元産業・事業所などが連携して、ILCから生じる技術、人などと結びつけるマッチングにより、ILCからの派生技術などを活用した地域産業の高度化を促します。

■土地・建物のマネジメントによるスピノフ(派生)産業の誘致

【スピノフ】5 ページ用語解説参照

・ILC運用後に生じる各種のスピノフやインキュベーション施設の誘致に迅速に対応するためには、複数の土地を集約し、ある程度のまとまった規模の土地としてマネジメントする必要があります。

・ランドバンクの取り組みを展開するほか、公共施設の空きストックの産業用途への有効活用を進めるなど、資産の管理体制を構築した上で、スピノフ産業が進出しやすい環境を整え、新たな産業振興の起点となるまちづくりを推進します。

ILCと地域資源のコラボレーション

・本市において、窯業や水産業などの基幹産業を有し、かつ、港湾や工業用地など、物流強化や産業振興を図る上での重要な要素とポテンシャルを有していることは大きな優位性であり、その強みを積極的に生かします。ILCでは、関連施設への積極的な木材利用を進めることとしており、貴重な地域資源である気仙産木材の関連施設への利用を積極的

【インキュベーション、ランドバンク】5 ページ用語解説参照

に働きかけます。

・本市には、多種多様な特産品があり、ILC外国人研究者の評価などを生かし、市場競争力の強化を図るなどしながら、ブランド化を推進します。

「グリーンILC」と連携したまちづくり

グリーンILCの基本概念に則し、地元企業と協力しながら、排熱回収技術などの活用を含めた効率的かつ環境負荷の小さい地域エネルギーの供給を進めます。

【グリーンILC】5 ページ用語解説参照

周辺に居住します。

本市は、ILC研究施設が所在することになる内陸部にはない特長・環境を有しており、ILC研究者などが、観光で本市を来訪することが想定されます。

本市では、「観光・交流」分野の将来像を次のように掲げています。

多くの人々から『選ばれるまち』

■ILCと一体的に大船渡市の情報を積極的に発信

ILCに関係する多様な人に対し、本市の「食」や観光に関する魅力・特色を積極的に発信し、認知度の向上を図るとともに、それらの人の余暇需要の受け皿を広域および官民連携により整えます。

「関わり」の拡大

多方面に本市の存在・魅力をアピールし、「関わり」を増やすことにより、ILCにゆかりのある人やILCに興味を持つ世界中の人に認知され、「選ばれるまち」となることを目指します。

■広域観光圏として連携

陸前高田市、住田町と連携して気仙地域一体となり、広域観光圏として多くの魅力を発信し、誘客を図ります。

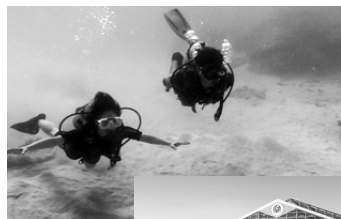
■交流拠点としての

魅力の強化

スピノフ産業の立地やインキュベーション施設の誘致に積極的に取り組み、交流の創出を促します。



物流拠点であることを生かしつつ、多方面に本市の「食」や観光に関する魅力・特色を積極的にアピールし、「関わり」の機会を増やすことにより、多くの人が集い、交流する「選ばれるまち」を目指します。



本市の魅力を積極的に配信します

(3) 広報大船渡お知らせ版 令和元年7月22日号(No. 1155)

▶ 問い合わせ＝市役所 ☎0192⑦3111

④生活・居住・滞在

ILCの運用に伴い、多くのILC研究者が研究施設周辺に居住すると考えられますが、内陸部にはない特長を有する本市にも、一定程度の研究者などが、居住・滞在することが予想されます。本市では、この分野の将来像を次のようにしています。

多彩な人々を受け入れながら 広域生活圏を拡大

■広がる行動圏・モビリティと生活圏連携の強化

・県南地域から気仙地域までを広域生活圏として位置付け、移動を支える道路や公共交通の拡充など、利便性向上のための取り組みを強化しながら、両地域間の連携促進を図ります。

・モビリティ（移動利便性・交通手段）技術の進化を注視しながら、官民連携による、自家用交通と公共交通を包括した交通体系の多角化を模索します。

■大船渡市・気仙地域の「受け入れる力」を発揮

・各コミュニティで「受け入れる力」を発揮し、さまざまな国・地域からの来訪者・滞在者が居心地よく、容易に地元で溶け込めるようなまちづくりを図ります。

・本市および気仙地域で連携し、宿泊および住居需要に適切に対応します。



ILC実現を契機として、さまざまな人を受け入れながら、気仙地域と県南地域の連携を軸とした広域生活圏を形成します。

⑤医療・教育・社会

ILC外国人研究者などへの対応はもちろんのこと、訪日外国人が増加傾向にある昨今においては、外国人受入環境の整備が喫緊の課題となっています。

また、生活圏・行動圏の中に世界的な研究施設が立地し、科学・物理が身近になること

により、幼少期から最先端の科学に触れながら育った子どもたちが、経験や努力を重ねながら、グローバルな感性を身につけることが期待されます。

本市では、この分野の将来像を次のように掲げています。

多くの人々が 未来を切り開く ことができるまち

■安全・安心なまちづくり

・二次保健医療圏の拠点である岩手県立大船渡病院を中心として、安心できる医療ネットワークの維持・強化に努めます。

・ILC実現に伴い、外国人研究者などの来訪・移住が想定されることから、県などの関係機関と緊密に連携した医療通訳サービスや医療機関、薬局などにおける外国語対応など、医療サービスの拡充を図ります。



【二次保健医療圏】5 ページ用語解説参照

国際リニアコライダー(ILC)講演会を開催します

ILCは、政府からの関心表明を受け、国内外において関係機関などによる活発な議論が進められていますが、ILCの実現には、市民一人一人の意識の醸成や適切な受け入れ準備が必要となってきます。

そこで、昨年度に引き続き、ILCに関する理解を深めるため、講演会を開催します。

ILC実現に向け、市民全体で盛り上げましょう！

▷日時＝8月21日(水)午後1時30分～3時40分
※午後1時開場

▷会場＝リアスホール大ホール

▷講演内容

(1) ILC計画に関する最新の動向について
講師＝山下了さん（東京大学素粒子物理国際

研究センター特任教授）

(2) ILCを契機とした地域振興について
講師＝佐々木淳さん
（岩手県理事兼ILC推進室長）

▷参加料＝無料

▷申込方法＝電話、ファクスまたはEメールで
①参加団体名②担当者氏名③電話番号④所属部署⑤役職・学年⑥参加者氏名を連絡ください。

※個人の場合、①、②、④、⑤は不要です。

▷申込先／問い合わせ先

ILC推進室（☎内線216／FAX②4477／Eメール＝ofu_ilc@city.ofunato.iwate.jp）



■高レベルな教育機会の創出、グローバルな人材育成、未来を切り開く機会の創出

子どもたちの成長を積極的にサポートしながら、世界に向けたグローバルな視点を持ち、ILCによる多様な効果・影響を最大限に享受するための取り組みをけん引する人材を育成します。ILC研究施設・関連施設や多様な立地企業などへの就労や関連する技術・知見を活用した産業振興など、将来を担う若者や子どもたちをはじめ、多くの人が生まれ育った地元を大切に、地元で居ながら、夢と希望を抱き、未来を切り開くことができるよう、その可能性と選択肢の拡大を図ります。



生活者、来訪者双方の視点から安心できるまちであるとともに、多くの人がILCの恩恵と財産を生かしながら、未来を切り開くことができるまちづくりを進めます。

用語解説

■物流ハブ

ILCでは、多くの資機材が国内だけでなく海外でも製造され、海上輸送されることが想定されています。

その多様で物量も多い各種資機材を大船渡港が拠点(ハブ)となり荷揚げし、建設候補地まで輸送することを想定しています。

また、本市では、物流ハブを単なる荷物を扱う拠点としての施設ではなく、荷揚げした資機材の検査、組み立て、保管などの機能も備える施設として位置付けています。

■スピノフ

特定の分野で開発された技術を民間の需要に転用すること。または、転用された技術を利用して生産された製品のこと。

■インキュベーション

起業や新事業の創出を支援し、その企業の育成・成長を促進させること。

■ランドバンク

空き家や空き地などを含む一定の地域を一体的に活用・再生する手法。

■二次保健医療圏

二次保健医療圏は、入院医療を中心とする一般の医療需要に対応するほか、広域的、専門的な保健サービスを効果的、効率的に提供するための圏域で、岩手県では9圏域に分けて設定。

本市は、陸前高田市、住田町とともに「気仙圏域」に区分されています。

■グリーンILC

ILCは、稼動に大きな電力負荷を伴う施設であり、消費された電力エネルギーは熱エネルギーへと変換され、従来の研究施設であれば、そのまま空中へ放出されていました。

近年、このような巨大電力施設については、持続可能なエネルギー供給でなければならないという考え方が国際基準となっており、その条件を満たすように立地されるILCを「グリーンILC」と呼びます。

グリーンILCは、次の4点を基本概念としています。

- ① ILC施設におけるエネルギーフロー（エネルギー資源の流れ）の合理化と持続可能なエネルギーの利用
- ② ILCからの排熱回収技術を生かした地域の排熱回収とそのオフライン輸送（温水配管などのパイプライン輸送ではなく、トラックなどによる車両輸送）
- ③ 地域の特徴を生かしたバイオマス利用によるエネルギーのオフライン輸送とILC関連施設の木造化
- ④ ILCと地域エネルギー供給事業との連携



グリーンILC(イメージ)